

第4回教育委員会定例会会議録

令和5年4月18日（火）

場 所：委 員 会 室

出席委員	教 育 長	雨 宮 和 人
	教 育 長 職 務 代 理 者	山 口 直 樹
	委 員	操 木 豊
	委 員	大 野 孝 儀
	委 員	佐 藤 有 里

出席職員	教 育 部 長	橋 本 祐 幸
	教 育 総 務 課 長	石 田 進
	教 育 施 設 担 当 課 長	島 崎 健 司
	教 育 指 導 支 援 課 長	荒 西 岳 広
	指 導 担 当 課 長	川 畑 淳 子
	生 涯 学 習 課 長	井 田 隆 太
	学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	土 方 勇
	公 民 館 長	清 水 周
	図 書 館 長	氏 原 恵 美
	指 導 主 事	小 島 章 宏
	指 導 主 事	小 柳 津 章 文

国立市教育委員会

付 議 案 件

区 分	件 名	
	教育長報告	
報 告 事 項	1) 公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の2023年度事業計画及び収支予算について	
議案第18号	臨時代理事項の報告及び承認について (地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係訓令の整備に関する訓令について)	
議案第19号	令和5年度国立市立小学校教科用図書採択について	
議案第20号	令和5年度国立市特別支援学級教科用図書採択について	
報 告 事 項	2) 令和4年度卒業式、令和5年度入学式の実施報告について	
	3) 国立市教育委員会教育振興施策の体系の見直しについて	
	4) 令和4年度学校評価報告書について	
	5) 令和4年度国立市立小・中学校 学校評議員会の報告について	
	6) 市教委名義使用について(7件)	
	7) 要望書について(1件)	
議案第21号	国立市教育委員会いじめ問題対策委員会委員の委嘱について	秘 密 会
議案第22号	第25期国立市社会教育委員の委嘱について	秘 密 会
議案第23号	第34期国立市公民館運営審議会委員の解嘱及び委嘱について	秘 密 会
議案第24号	教育委員会職員の人事異動について	秘 密 会
議案第25号	臨時代理事項の報告及び承認について (令和5年度主幹教諭・主任の任命について)	秘 密 会
議案第26号	臨時代理事項の報告及び承認について (教職員の人事異動について)	秘 密 会

○【雨宮教育長】 皆様、こんにちは。4月1日から学校教育においては、基本マスクの着用が不要という取扱いになったところでございます。その中で4月6日小学校の入学式、7日中学校の入学式が挙行されました。多くの子どもたちがマスクをしないで入退場という形で、例年の形で行われてとてもよかったなど式に参加する中で感じたところでございます。

新年度でございますけれども、ハード系の事業ということで申し上げますと、二小の建設工事が始まっています。また、食育推進給食ステーションの稼働が本年度の二学期から、それから、総合教育センターが10月から稼働するという。また、社会教育分野になりますけれども、旧本田家住宅の復元工事が本格化をしていくということがございます。

ソフト的な点で申し上げますと、魅力ある学校づくり事業が2年目を迎えます。国立のフルインクルーシブ教育の実現に向けた取組がまた一步進む状況になろうかと思っております。

令和5年度、大きな事業、施策等抱えておりますので、教育委員の皆様のご支援、また、我々教育委員会事務局が一体となって教育行政を前に進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、これから令和5年第4回教育委員会定例会を開催いたします。

本日の会議録署名委員は佐藤委員にお願いいたします。よろしいでしょうか。

○【佐藤委員】 はい。

○【雨宮教育長】 よろしくをお願いいたします。

議事に入ります前に、4月の人事異動による説明員の交代があり、教育部長から発言を求められておりますので、これを許します。

橋本教育部長、お願いいたします。

○【橋本教育部長】 令和5年4月1日付、人事異動に伴う新たな出席説明員をご紹介します。

初めに、教育指導支援課長、荒西岳広でございます。

○【荒西教育指導支援課長】 どうぞよろしくお願いいたします。

○【橋本教育部長】 次に、指導主事、小柳津章文でございますが、本日は家庭の事情がございまして欠席しております。

紹介は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。人事異動に伴う新たな説明員は以上、紹介のあったとおりでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、審議に入りますが、本日の審議案件のうち、議案第21号「国立市教育委員会いじめ問題対策委員会委員の委嘱について」、議案第22号「第25期国立市社会教育委員の委嘱について」、議案第23号「第34期国立市公民館運営審議会委員の解嘱及び委嘱について」、議案第24号「教育委員会職員の人事異動について」、議案第25号「臨時代理事項の報告及び承認について（令和5年度主幹教諭・主任の任命について）」、議案第26号「臨時代理事項の報告及び承認について（教職員の人事異動について）」は、それぞれ人事案件ですので秘密会といたしますが、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。では、そのように取り扱わせていただきます。

◇

○議題（１） 教育長報告

○【雨宮教育長】 それでは、審議に入ります。初めに教育長報告を申し上げます。

3月20日月曜日、第3回定例教育委員会を開催いたしました。

21日火曜日、家庭教育講座（家庭におけるメディアとの向き合い方）を開催いたしました。

23日木曜日、小学校が修了式でございました。

24日、小学校が卒業式でございました。

同じく、中学校が修了式でございました。

同日、国立市議会最終本会議が開催され、翌25日、たしか午前2時でしたけれども、その時間に終了してございます。

25日土曜日ですが、国立音楽大学附属中学校・高等学校の新2号館の落成記念式典が開催され、市長、副市長、それから私が参加をしましてまいりました。

27日月曜日、文化財保護審議会を開催いたしました。

28日火曜日、社会教育委員の会を開催いたしました。

29日水曜日、臨時校長会を開催いたしました。

同日、NHK学園の評議員会がNHK学園で開かれ、出席をしましてまいりました。

3月31日金曜日、教職員の退職辞令等の交付・伝達を行いました。

4月1日土曜日、この日から2日にかけてさくらフェスティバルが開催されました。

3日月曜日、市職員、教育管理職員等の人事異動発令・伝達を行いました。

同日、校長会を開催いたしました。

5日水曜日、自閉症・情緒障害等特別支援学級「フレンド」が第六小学校で開級され、開級式に出席をしましてまいりました。

6日木曜日、小学校の入学式、小中学校始業式でございました。

7日金曜日、中学校の入学式でございました。

同日から翌8日にかけて校舎建設工事説明会を第二小学校で開催いたしました。

8日土曜日、矢川プラスの開設式典が行われ、出席をしましてまいりました。

10日月曜日、校長会を開催いたしました。

また、この日から11日にかけて小中学校で給食が開始されております。

11日火曜日、副校長会を開催いたしました。

同日、東京都市教育長会が開催されました。

同日、公民館運営審議会を開催いたしました。

13日木曜日、スポーツ推進委員会を開催いたしました。

教育長報告は以上でございます。ご意見、ご感想などございますでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 一中の入学式に参列しました。そこで、校長の入学の言葉の中で、一中ではインクルーシブ教育をスタートさせるのだということを明言されていたところが印象的でした。やっぱり教育委員会のこういう会議で話し合って、それが校長会に浸透して、我が学校ではこういった教育を、インクルーシブな教育をやるということは大きな一歩だと思います。とはいえ、いろいろ前途多難な問題もあるとは思いますが、一歩ずつ完成を目指して進んでいけばいいなと思いました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 私、年度末、年度初めの恒例の教職員の退職辞令の交付式に出させていただきまして、本当にお疲れさまでした、ご苦労さまでしたという声かけをさせていただきましたけれども、そんな思いが募りました。ありがとうございました。

それから、年度が替わりまして、今度は新しい方、異動されてきた方の辞令の伝達式だったのですけれども、ここではまた、新しい年度を迎えて、新人も含めて本当に意欲あふれる、そんな気持ちを感じました。すごく頼もしかったです。そんな思いを持ちました。

あと、卒業式、入学式関係なのですけれども、ずっとコロナの対応でいろいろな工夫をされてきて、少しずつ元に戻ってきてはいるのですけれども、やっぱりここで学んだ新しい取り組み方とか、そういったものを残していいなと思いました。特に第三小学校の卒業式に出させていただいたのですが、今までですと、私の感覚からすると、退場のときというのは1クラスずつ退場して、皆さんが拍手で送り出すのですけれども、三小の場合は3クラス同時に立ち上がって、子どもが3つの通路というか、それでもって退場していくのですね。最後に担任が残って、頭を下げて、保護者から拍手をもらって、時間も短縮になったし、すばらしい、いいなということを校長先生に後からお話したのですが、ぜひよその学校でも広めてくださいなんてお話ししたのですけど。初めて見た経験で、私は感動しました。

それから、入学式のほうなのですけれども、一中のほうは大野先生が言われたとおり、同じことを感じました。小学校のほうは一小に出させていただいたのですけれども、朝、天気が悪くて、全体での始業式ができなかったということで、かなり大変だったという話を聞きました。入学式のときにはもう天気もよくなって、いい式ができたのですけれども、前ですと2年生が学校に待機していて、歓迎の言葉とか歌とか披露するのですけれども、それも映像になっていて、2年生の負担は少なかったかなと思いました。

それから、これはいろいろなところでやっているところなのですけれど、小学校の最初の日には2年生から6年生まですごく忙しいのですね。本当に朝、ちょっと顔を合わせて、「担任になりました、よろしくお願いします。じゃあ、明日から頑張ろうね。さようなら」で帰したりすることがあったのですけど、やっぱり忙しいので何とかならないかなとずっと思っていたのですけど、いろいろ情報を聞いてみますと、よその地区では、入学式を午後にしているところも随分出ているみたいですね。そうすると午前中はしっかりと進級した子どもたちを迎えたり、それからいろいろな準備をしたり、話をしたり、そして午後、落ち着いたところで入学式を迎えるなんて、そんな取組をやっているところを見て、これもいいなと思いました。

いろいろなことを含めてコロナが落ち着いて、元に戻って、じゃあ全て元どおりに戻すのかではなくて、いろいろなことを、ここで学んだことを生かしながら、さらに何かいろいろな方法を取り入れて、そんなことを校長先生たちといろいろなところで話をしていきたいなと思っております。

以上、感想等です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがですか。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 七小の卒業式に出ましたが、卒業証書を受け取る前に一言ずつ夢を語ってくれて、イラストレーターだったり、野球選手だったり、水族館で働きたいという子がいたり、本当にいろいろな夢を話してくれて、その子自身が考えて語ってくれた言葉だなと感じて、自由に伝えてもらってよかったなと感じました。

4月に入って地域では、見守り会の方がすごくたくさん出てきてくださっていて、1年生の帰る時間に

しっかり待っていてくださり、各方面に別れたときにも 10 人以上の方たちが 1 つのグループについてくださって、見守っていただいている状況があります。朝もきょうだいそろってうれしそうにランドセルを背負って向かう姿を、50 メートルおきぐらいに、本当に皆さんが見守ってくれているような状況で、また小さな温かい時間が過ぎているなど感じています。そんな地域が続いていけるように私もサポートしていきたいと思いました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 七小の入学式では見守り会の方たちが子どもたちにちゃんと見守るよというアピールを、式典の前かな、途中だったと思うのですが、ちゃんとされて、保護者もそれを聞いて安心していると。やっぱりそれは素晴らしいことが引き続き行われて、地域の方たちもそれをしっかりと意識してやられているなどすごく強く感じたところです。

あと、幾つか説明していただきたいのですが、まずちょうど学校が始まって約 10 日、1 週間ちょっとたったところですが、現状においての様子を聞かせていただければと思います。

それから、学校の状況ですと、第六小学校に情緒障害の特別支援学級、3 校目ですね。「フレンド」ができて、そのスタートの状況というところ、十何人入られたと聞いているのですが、そこら辺のこと。それから、特別支援教室のほうですね。これは 1 週間のうち何日間かその教室に行って勉強するというのですが、この体制も今年度変わったかと思うので、説明をしていただければと思います。

それと、昨日、実は矢川プラスに行きまして、3 月にも 2 回ほど行って、4 月になってから初めて行ったのですが、正直言ってびっくりして。子どもたちが小山を転げ落ちたり、いろいろしていたりとか、広いところを走り回っていて、室内だとそれなりにグループをつくってゲームしていて、2 階では中学生ぐらいが勉強していたりとか、いろいろと有効活用しているなど。もちろん、学校の先生はいないわけですね。そこら辺のところは素晴らしいなどと思って見てきたところですが、矢川プラスの状況とか何か分かっていることがあれば、学校のほうでの感想、第六小学校が一番近いので、六小の子たちが結構中心で遊び回っているのかなという気はするのですが、その辺が分かれば教えていただければと思います。以上です。

○【雨宮教育長】 では、4 点ございました。

1 点目、新学期を迎えて学校の様子ということで、小島指導主事、お願いいたします。

○【小島指導主事】 では、令和 5 年度が始まりまして、現段階での学校の様子については私のほうからご報告させていただきます。

新しい小学校 1 年生、中学校 1 年生が入学しまして、小学校 1 年生ですと、まだまだ学校の中がよく分かっているという状況もありますし、着替えにしてもどうやってみんなと合わせてやっていくかというところの苦労はそれなりにあるという感覚を持っております。ただ、周りの高学年の児童が支えながらというところもありますし、中学生の場合ですと先輩方の姿を見ながら学校生活になじんでいく段階だと、学校からも報告を受けております。おおむね順調なスタートを切っているところがあります。

また、昨年度と違うところが、新型コロナウイルスの対策に関しては大分緩和されたところがありますので、一斉に全員が集まるような機会も、昨年度から比べると変わってきているところがございます。

また、教育委員会のほうで入れさせていただいた学校と家庭との連絡システムを活用した検温の仕組みというのを、大分広い範囲の学校で使っていただいているところもございます。あと、幼保小の連携の視点から見ますと、これは昨年度から学校、幼稚園、保育園、認定こども園にお願いしているところで、こ

の4月の2週目、3週目、ぜひとも幼稚園・保育園の先生方に、新1年生の様子を見てくださーいということをお願いして、枠組みを作って実施しているのですが、その中で早々に幼稚園・保育園の先生方がいらっしやって、子どもたちの様子を見ていただいているところもあります。

こういったところで、子どもの生活の新しいスタートというところと、今まで実施してきたところ、さらに充実している部分と、あとは校種を越えた取組というところで、新しい取組がどんどんスタートしているところが、今の現状としてはあります。

私からは以上となります。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは六小「フレンド」が開級したわけですが、その様子ということで、お願いいたします。

川畑指導担当課長、お願いいたします。

○【川畑指導担当課長】 今年度から六小で「フレンド」が開級しました。子どもたちは12名からスタートしております。前日、5日の開級式に教育長と一緒に参加をしてきましたけれども、そこでは1年生はまだ入学式前でしたので、1年生以外の子どもたちがいました。なかなか席に座ってられない子ですとか、本当に様々な特性が見られた中でしたけれども、すごくこじんまりとしたとても温かい、いい会だったなという印象を持っています。

会が始まる前に校長先生とお話ししたときに、通常の学級とか特別支援学級とかという、そういう名称にこだわらないで、学年のクラスの1つという形で考えていきたいということで、学年の学級という形で、教職員の中ではそういうふうに言葉を使っていこうという、共通理解もしているのだという話を聞いたところです。

また、数日後、副校長から「フレンド」の様子を聞くことができました。その話は、子どもにとって適切な場というのでしょうか、落ち着ける場に移ったことによって、本当に人が変わったかのように落ち着いて、表情も柔らかく過ごしている子どもの姿を見ると、やっぱり学びの場というのはすごく大事なのだなと、改めて感じたという話を聞きました。落ち着いた形でスタートが切れているという話を聞いておりますので、今後、実際に子どもたちの様子を見に行きたいなと思っているところです。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

3点目は特別支援教室の体制ということでございます。

川畑指導担当課長、お願いいたします。

○【川畑指導担当課長】 特別支援教室の巡回指導の拠点校が、今年度より小学校が1つ増えました。これまで3拠点交代制だったものが4拠点交代制になりまして、小学校は全て2校ずつのペアになっております。

新たに二小を拠点校としまして、新しい組み合わせで二小と五小となっております。あとは四小と八小、六小と一小、七小と三小という形で今、スタートをしているところです。

ここについても拠点校が増えてペアになったことで、中には巡回指導教員が異動とかで替わった学校もあるのですが、しっかりと市内でも共通認識の下、子どもが安心して、落ち着いて過ごせるようにといったところで、情報共有とかをしながら進めていくところです。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。4点目は分かる範囲内でということなので、矢川プラスの状況について。

川畑指導担当課長、お願いいたします。

○【川畑指導担当課長】 矢川プラスについてなのですが、何回か矢川プラスのオープニングイベ

ント等に参加して、館長の話とかを聞く機会がありました。その中でも特に印象的だったのが、9日にあったオープニングイベントの中の1つで、細田館長と川崎夢パークの西野さんのクロストークの中での話なのですけれども、4月1日からオープンして、最初の4日間で6,000人が来場したという話を聞きました。子どもや子育て世代が多いといったところで、その話を聞いた中で、そこは9日だったので、今度は9日間やってきて、実は困ったことが起こったのだという話が館長からありました。

それは、禁止事項を作らずにスタートをした中で、2階にスタディコーナーという名称のお部屋があるようなのですが、そこが実はもうゲームコーナーっぽくなっていると。スタディコーナーなので、そこに勉強しに来ている子どもから、小学生が4人ぐらいでゲームをやっているのどうさという苦情があったそうです。そういう苦情を通して、やはり矢川プラスでも困ったときにみんなで話し合って解決できる、そんな場になってほしいという考えがあるという話がありました。

その話の中で、西野さんから「自由って何だろう」と考えるいい機会になって、自由は何でもありというのではなくて、相互尊重がある中で成り立つものだから、そこは指導ではなくて、やはりそこにいる人たちが、例えば私はこういうのはすごく不快に思うとかいうような、アイメッセージでしっかりとお互いに伝え合えることで、そういう育ちができる場になるのではないかという話を聞いていて、とても印象に残りました。

5時からスタートの回だったのですが、まだまだ矢川プラスには本当に小さなお子さんから中学生、高校生ぐらいのお子さんまで本当ににぎやかな、皆さん本当に楽しく過ごせているような場になっていたので、また今後、特に六小が近いので六小のお子さんが多いと聞いておりますので、子どもの居場所の1つになればいいなと思っております。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 ありがとうございます。矢川プラスの行っていて感じる部分は、今、最後に言った、そこを使っている子どもたちが主役で、子どもたち自身がどうしたらここがいい場所になるだろうと。やりながら困ったことが出てきたら自分たちで解決する。このことは子どもの成長にとってすごく大きいことで、正直言って、学校の中だと、もう学校ですからある部分決まったことがあって、先生もいらっしゃる中ですから、ある程度それは限られている。それがなくなるところに行って、そういう場所ができたということとはすばらしいなと。学校は学校でのいい部分、矢川プラスは矢川プラスのいい部分、そういう場所がどんどん増えていくことが、子どもの成長にとって本当に寄与しているかなと思います。

それから、もう1つは特別支援教室、専門員さんの連絡会に出させてもらったのですが、専門員さんは、いわゆる巡回で回ってくる先生と、その子が所属している学校との連絡調整みたいのを全部やる人ですけど、その方がもともとのクラスの担任の先生と巡回で来る先生と、簡単にいえばつなぎをする。非常に優秀な人たち、ベテランもそろっていてやられている。これは国立が持っている、さっきフルインクルーシブの話が出ましたが、まさにそのベースを作るようなことを実際に特別支援教室でもやられている。特別支援学級はもちろんさっき言われたことが現実起こっている。それも全部含めてフルインクルーシブではないかなという思いを新たに強く、実は思ったところであるので、聞いてみたところでございます。ありがとうございました。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。1点だけ、私も入学式の関係で。これは本市ではないのですけれども、いろいろ情報を収集している中でこういう取組があつてすごくいいなと思ったのをここで話させていただきます。

調布市での取組だったのですけれども、ある小学校なのですが、地域の協力もあってなのですが、新1年生の自画像が入学式の日に展示してある。そういう取組をやっている学校があるというのを見たのですね。これは当然、新1年生ですから、その前に所属している保育園なり幼稚園なり認定こども園なりの協力も必要ですし、多分育成会とかそういうところの協力も頂く中において、入学式のときに自画像が掲示してあるという取組が出て、すごくいい取組だな、新しく学校に入る子どもたちを迎えるに当たって、これやったらすごく楽しいなと私は感じました。これができるかどうかはそれぞれの地域特性というのはあるかと思いますが、何か校長先生たちに提案したいなと感じましたので、ちょっと蛇足になりますけれども、ご紹介させていただきました。



○議題（２） 報告事項１） 公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の2023年度事業計画及び収支予算について

○【雨宮教育長】 それでは、皆様からご意見を頂きましたので、次に参りたいと思います。

報告事項1「公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の2023年度事業計画及び収支予算について」に移ります。

では、くにたち文化・スポーツ振興財団、高橋事務局長、お願いいたします。

○【高橋くにたち文化・スポーツ振興財団事務局長】 皆様、こんにちは。くにたち文化・スポーツ振興財団事務局長の高橋と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の2023年度事業計画並びに収支予算のご説明をさせていただきます。

それでは、まず事業計画のほうから説明させていただきます。

まず表紙をおめくりいただきますと、目次の次のページが「くにたち文化・スポーツ振興財団の事業とSDGsとの関係」と題したページとなります。2023年度の事業計画でも2022年度に引き続きまして、SDGsと財団事業との関係性について記載をさせていただきました。特に5つのPのゴールを基本として、常にSDGsを意識して目標達成に向けて財団事業に取り組んでまいります。また、国立市が提唱している健康まちづくり戦略の3点の方向性を意識して、市や関係機関と連携して目標達成に取り組んでいくこととしております。

それでは、ページをおめくりいただきまして、初めに1ページですが、「事業計画の概要」でございます。初めにあります6つの白丸でございますが、これは定款にあります財団の事業を記載させていただいております。国立市と連携をしつつこれらの事業の実施を通して芸術文化の振興、市民の健康の保持・増進等を図ってまいります。また、先ほど山口教育委員からのお話もありました矢川プラスと関係いたしまして、矢川プラスと当財団、あるいは社会福祉協議会などと協働し、国立市が掲げる「市民一人ひとりのウェルビーイングを支えるまちづくり」を目指して取り組むこととしております。

実際に矢川プラスのオープン前に、2月、3月になりますけれども、矢川プラスの中に防音装置が施されたスタジオがあるのですけれども、そこの中にピアノですとかドラムセット、それからギター、ベースなどが導入されているのですが、当財団のスタッフの専門家がそちらへお伺いしまして、セッティングをさせていただいたり、あるいは音源をいろいろ調整するミキサーもあちらに入っているのですが、そちらも財団のほうからお伺いして、全部調整して、使用方法等の説明もさせていただきました。

今後、財団と事業団、矢川プラスと協力し合って事業展開をしていけたらいいなと考えております。

それでは、まず初めに2ページから4ページの芸術小ホールについてでございます。

まず、2ページ目、上部にございます枠内についてですが、ここでは芸術小ホールの2023年度の運営に関する基本方針について述べさせていただいております。性別や年齢、あるいはしょうがいの有無など、それからライフスタイル等の様々な状況・背景を持った方々の生活を、芸術文化の側面から支えるダイバーシティ、そしてソーシャルインクルージョンを意識して、先ほどのSDGsを生かした事業展開を図ってまいります。

次に、2023年度の芸術小ホールの運営概略でございます。1点目は、「芸術文化を身近なものにしつつ、本物に触れる場となる」ということでございます。基本方針でも述べましたが、市民に身近な施設として鑑賞や参加体験ができる質の高い事業を展開してまいります。

2点目は、「ポストコロナ時代に芸術文化を活かす」でございます。コロナ禍で施設利用の制限や事業の中止、延期など大きな影響がございましたが、今後もこの不安定な状況は継続するだろうということを考慮しつつ、感染対策に努め、事業を積極的に実施してまいります。また、アーティストの活動の機会を提供し、彼らと一体となり、事業を通じ、コロナ後にあるべき地域ホールの姿を追求してまいります。

3点目は、「様々な立場の市民を対象に」ということでございます。SDGsを中心として、高齢者や障害者など、これまで事業に関わりづらかった方とできる限り接点を持つことを意識して、様々な市民に芸術の喜びを伝える事業を展開してまいります。

次、2ページから3ページにかけてになりますけれども、4点目は「クリエイション（創造）への取り組み」です。芸術の真髄である創造に積極的に取り組み、他の公共ホールとの違いを際立たせるとともに、制作力のある施設を目指し、芸術小ホールの名前を広めて注目を集めることで施設利用の活性化や、また市内のにぎわいへとつなげてまいります。

5点目は、「芸術活動促進に向けて」です。これまでと同様にツイッターやユーチューブなどを活用し、積極的に情報発信、広報を進めてまいります。また、財政面では外部助成金の獲得、さらに芸術団体等と連携をし、芸術的価値とスケール感のある事業を手がけてまいります。

これらのことをベースに事業を進めてまいりますわけですが、事業といたしましては大きく「芸術環境創造事業」、「芸術振興事業」及び「その他」と分類して提案させていただきました。

事業内容については後ほど事業一覧のほうで説明をさせていただきます。

次にページをおめくりいただきまして、5ページ、6ページが「郷土文化館」でございます。

上段枠内、「基本方針」になりますが、「過去・現在・未来を結ぶ」という郷土文化館の運営の基本理念自体がSDGsに通ずるもので、今後もこの理念を尊重しつつ運営を推し進めてまいります。また、地域に貢献する博物館を目指すこと。参加型の運営を拡充し、調査研究等に市民力が発揮できる機会を確保することなどについて取り組んでいきたいと考えています。

「2023年度の運営概略」としては、SDGsの目標に向けて右下の図にありますように、「過去・現在・未来を結ぶ」をメインテーマとして資料保存期間としての機能を生かしつつ、企画展、企画事業を通して地域の人々の学びの拠点として活動してまいります。また、附属施設の古民家及び城山さとのいえと連携をし、事業を進めてまいります。

次に、事業についてですが、大きく4点挙げさせていただいております。まず、(1)郷土の歴史、民族及び自然環境等に関する資料の収集、保存、調査研究、教育支援のための事業でございます。ハケ、里山の保全と共生のための観察事業、保全事業を展開してまいります。また、城山さとのいえと協力・連携し、古民家伝統行事の共催を推進してまいります。

次に、国立市観光まちづくり協会等と連携し、古民家の多角的な利用を促進するとともに、旧国立駅舎

を活用し、有形文化財への理解と関心を深めてまいります。

次に、6 ページ、(2) 市民が参加及び体験する事業―産官学の連携による、まちぐるみ創造空間の演出参加―についてでございます。歴史、文化の継承拠点としてそれを支える団体・サークルとの協力体制の確立、国立市と包括連携協定を締結している大学との協働事業の展開、出前講座、課外学習会等学校教育への積極的支援、国立市所蔵美術品について市民等への情報提供の推進、公民館、図書館の社会教育機関など、行政と連携し展示事業、調査研究事業を促進してまいります。

次に、(3) 行政の事務事業及び生涯学習活動の支援についてでございます。市の広報担当から移管された写真のデジタル化を推進するとともに、関連した企画展の実施、資料研究室の内容充実と利用の促進、講座事業オンライン発信の充実、常設展示室を中心とする展示資料の見直しや新たな展示開設の方法の検討、指定管理事業の内容の精査と一層の効率化等を実施してまいります。

最後に(4) 市内遺跡整理調査業務受託事業ですが、市から受託して市内の遺跡調査の整備及び報告書の作成を行います。以上が郷土文化館でございます。

次に、ページをおめくりいただきまして、7 ページから 9 ページが「総合体育館」でございます。上段枠内基本方針ですが、SDGs において「スポーツは持続可能な開発における重要な鍵となるものである」とし、必要不可欠なものとしています。また、右下の図にありますように、スポーツ庁の第 3 期スポーツ基本計画でうたわれている「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」「あつまり、ともに、つながる」の新たな 3 つの視点を意識して、誰もがスポーツの楽しさや喜びを味わい、人々と共有することで健康的な生活が送れるよう事業展開してまいります。

8 ページになりますが、「2023 年度の運営概略」としては、「健康づくりのスポーツ事業の充実」、「スポーツ及びレクリエーションの普及事業の充実」、「親と子どものスポーツ体験事業の充実」、「小中学生のスポーツ体験の充実」、「共催事業の充実」、「関係機関との連携」の 6 点を挙げさせていただいております。

事業といたしましては大きく 3 点ございます。まず、(1) スポーツ及びレクリエーション事業でございます。アの「健康づくりのスポーツ事業の充実」では、誰もがスポーツに親しむ環境づくりのため、現在の事業の充実と誰でも気軽に参加できる事業の検討を行ってまいります。イ「スポーツ及びレクリエーションの普及事業の充実」ですが、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という 3 つの視点で、特に「みる」という観点から得られる感動や応援を通して選手と観客の一体感が得られるよう事業の検討を行います。ウ「親と子どものスポーツ体験事業の充実」ですが、幼児期から運動の機会を与えることは非常に重要であることから、子どもの運動、遊びの機会の充実を図ってまいります。エ「小中学生のスポーツ体験事業の充実」ですが、コロナ禍によりスポーツに親しむ機会が減り、子どもの体力が低下傾向にあり、運動やスポーツをする機会の充実を図っていく必要があるということで充実してまいりたいと考えております。オ「共催事業の充実」ですが、国立市体育協会との共催事業のさらなる充実、また、国立市との事業である小学生初心者水泳教室などを実施してまいります。カ「関係機関との連携」です。国立市体育協会、東京女子体育大学、一橋大学、総合型地域スポーツクラブ（くにたちエール）との連携強化を図ってまいります。また、しょうがいしゃスポーツの推進支援のため、東京都とも連携をしてまいります。

9 ページになりますが、2 点目は(2) 学校開放受付業務受託事業です。これまでどおり国立市から市立小中学校の施設開放事業の受付事務を受託し、スポーツの場の提供と利用者の利便性の向上を図ってまいります。

最後に(3) 特定保健指導における運動継続支援業務受託事業でございます。本事業に関しましても引き続き国立市から事業を受託し、市民の健康増進に寄与してまいります。特に特定保健指導終了後も、参

加者が継続して運動ができるよう仕組みづくりをしてまいります。

以上が総合体育館でございます。

続きまして、11 ページから各館の事業計画の内訳となっております。それぞれ各事業の右端にSDGsのどのゴール、ターゲットと関連している事業であるかについて表記をさせていただいております。

まず11 ページから14 ページが芸術小ホールでございまして、番号の2「新・放課後ダイバーシティダンス」でございまして、2022 年度まで実施をしてきた放課後ダイバーシティダンスの参加者を中心に、新たにアフターコロナ時代のコミュニティの創造を目指して事業を実施してまいります。番号の3「誰もが楽しめるジャズコンサート」でございまして、本事業は大野教育委員の発案による事業でございまして、2021 年度から実施をしている事業なのですが、今回参加者が非常に多く、定着してきたことから、2023 年度からは正式な事業として実施をしてまいります。

番号の12「多和田葉子 複数の私vol. 6」は、これまで5回行ってきた「多和田葉子 複数の私」の6回目として、2020 年度に実施をした朗読劇「夜ヒカル鶴の仮面」を市民出演で上演する予定でございます。番号の13は2020 年度に制作をした映画「太陽のタネ」から派生する事業で、2022 年度に引き続き、国内数か所で巡回公演を行う予定でございます。番号の14は2022 年に実施をした多和田葉子氏原作のオペラ「あの町は今日もお祭り」について、日本演劇学会でのシンポジウム発表を行う予定です。

次に13 ページ、番号の20になりますが、国立市でこれまで3巻発行してきている、「国立新書」の新刊として芸術小ホールのこれまでの歩みと市民との協働をテーマとした書籍を編集、発行する予定でございます。

以上が芸術小ホールについてでございます。

次に、ページをおめくりいただいて、15 ページから18 ページまでが郷土文化館の事業となります。

番号4「くにたち陶芸展」でございまして、前回実施をした2019 年度に引き続き、今回が9 回目の開催となります。番号の5「秋季企画展 学舎のまちくにたち」でございまして、国立市教育委員会の協力あるいは連携をして、国立市内の公立・私立小学校11 校の歩みを紹介する展示会を開催する予定でございます。

以上が郷土文化館の事業についてでございます。

次に、19 ページから22 ページが総合体育館の事業です。事業としては例年実施している事業となりますが、新規事業として番号の10「国立プロスポーツ観戦DAY」は、2022 年度にサッカーのFC東京のご厚意で、同チームの主催する試合を無料で観戦していただく事業を実施しましたところ、申込者多数で抽せんになるほどの盛況となったことから、2023 年度では正式な事業として計画に組み込ませていただきました。番号の21「第30 回ファミリーフェスティバル」はコロナの影響で2020 年から中止をしておりましたが、4 年ぶりにこの5月5日のこどもの日に実施をする予定です。

2023 年度事業計画については以上となります。

続きまして、2023 年度の収支予算についてご説明を申し上げます。「2023 年度収支予算」をご用意いただきまして、まずお開きいただきますと、1 ページ、2 ページに全体の予算が載っておりますので、そちらでご説明をさせていただきます。

2023 年度の予算全体としては収支とも3,657 万円、約8.6%の増となっております。今回の増の大部分は、光熱水費、電気、ガス料金の増に対応するものですが、これに関して収入支出とも約3,500 万円の増となっております。また、2023 年度から固有職員の退職手当制度を開始することから、中小企業向けの退職金共済制度である中小企業退職金共済事業本部、略称を中退共というのですが、中退共の掛け金を収入支出

それぞれ 150 万円ほど計上させていただいております。

それでは、まず、予算書の 1 ページの中段までが収益となっております、その収益の 1 ページの中段に、ちょっと見にくいのですが、太線で囲まれた「経常収益計」という行がございます。その行の右から 3 列目になりますけれども、これが 2023 年度経常収益予算額で 4 億 6,296 万 7,000 円となり、2022 年度と比較して 3,657 万円、8.6%の増となっております。

費用支出については右側のページ、2 ページの中段、やはり太線で囲まれた「経常費用計」の行、右から 3 列目の本年度予算額の 4 億 6,289 万 7,000 円となりますが、それに、10 行ほど下にあります「法人税等」の 7 万円を加えますと、収益の予算額と同額の 4 億 6,296 万 7,000 円ということになります。

それでは、収益費用ごとに比較的増減の多いものを中心にご説明させていただきます。

まず、収益についてですが、左側のページ、(1) 経常収益の中の 6 行目、「自主・共催事業収益」ですが、1,665 万 9,000 円、対前年で 113 万 4,000 円、6.4%の減となっております。これは 2022 年に芸小ホールで実施をした多和田葉子氏のオペラ公演、くにたちオペラの事業収入が今年度についてはないということによるものでございます。

次の行、「国立市指定管理料収益」は 3,349 万 5,000 円、13.2%の増となっておりますが、これは先ほどお話をさせていただいた、光熱水費の値上げに対応するための市からの指定管理料の増となっております。

次に、そこから 6 行ほど下「国立市補助金」ですが、6,666 万 3,000 円で 157 万 5,000 円、2.4%の増となっています。これも先ほど申し上げました中退共の掛け金に対する国立市からの補助金の増ということでございます。

次に、そこから 2 行下「国等助成金」ですが、810 万 7,000 円で 286 万円、54.5%の増となっています。これは芸術小ホールの事業、文化庁巡回公演事業音楽会「太陽のタネ」に対する国等からの助成金を見込んでいるものでございます。

以上が収益でございます。

次に、1 ページ中段以降の (2) 経常費用についてでございます。これに関しましても比較的増減の大きなものについてご説明を申し上げます。

まず、1 ページ (2) 経常費用の 3 行目にある「報酬」ですが、4,230 万 5,000 円で 220 万 8,000 円、5%の減となっておりますが、これは主にシステム担当の嘱託員の減員によるものでございます。

そこから 3 行下は、先ほどお話をいたしました「中退共掛金」157 万 5,000 円を新規で計上させていただいております。

そこから 4 行下「旅費交通費」299 万 5,000 円、254 万 3,000 円の増ですが、これは職員手当の交通費を 2022 年度までは給料手当に計上していたものですが、交通費というのは、実は消費税の申告時に旅費交通費として申告する必要があるということから、システム上なのですが、職員手当の通勤費を旅費交通費に計上し直したことによるものでございます。

次に、そこから 6 行ほど下にある「光熱水費」7,252 万 8,000 円、3,361 万円の大幅な増ですが、これは先ほどお話をいたしました電気、ガス料金の増に対応するものでございます。

次に、そこから 4 行下の「諸謝金」でございますが、634 万 5,000 円で 233 万 6,000 円、26.9%の減となっておりますが、これはくにたちオペラに関する謝礼等が今年度についてはないということによるものでございます。

それから、下から 2 行目の「委託費」ですが、1 億 7,675 万 8,000 円で 256 万 8,000 円、1.5%の増となっています。これは先ほどお話をいたしました「太陽のタネ」巡回公演に関する委託費の増となっております。

す。

次に、右ページの「管理費」ですが、予算科目により多少の増減がございますが、全体としては前年度と同額の2,602万8,000円となっています。

2023年度の事業計画及び収支予算の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。報告が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。いかがでしょうか。よろしいですか。

では、特にないということによろしいでしょうか。

それでは、報告事項1「公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の2023年度事業計画及び収支予算について」を終わります。高橋事務局長、長時間にわたり丁寧なご説明、ありがとうございます。



○議題（3） 議案第18号 臨時代理事項の報告及び承認について（地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係訓令の整備に関する訓令について）

○【雨宮教育長】 次に、議案第18号「臨時代理事項の報告及び承認について（地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係訓令の整備に関する訓令について）」を議題といたします。

荒西教育指導支援課長、お願いいたします。

○【荒西教育指導支援課長】 それでは、議案第18号「臨時代理事項の報告及び承認について（地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係訓令の整備に関する訓令について）」ご説明いたします。

本議案は地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴い、運用規程を定めるものでございます。

1枚おめくりください。国立市立学校職員服務規程及び国立市立学校職員の兼業等及び教育公務員の教育に関する兼職等に関する事務取扱規程について。こちら第28条の5第1項を第22条の4第1項に改めるものでございます。なお、この訓令については令和5年4月1日から施行いたします。

説明は以上です。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。説明が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

皆様、ご異議がないようですので、承認でよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。議案第18号「臨時代理事項の報告及び承認について（地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係訓令の整備に関する訓令について）」は承認といたします。

では、ここでおおむね1時間を経過いたしましたので、こちらの部屋の時計、3時10分まで休憩といたします。よろしくお願いいたします。

（休憩）



○議題（4） 議案第19号 令和5年度国立市立小学校教科用図書採択について

○【雨宮教育長】 では、皆さん、おそろいですので、休憩を閉じて議事を再開いたします。

次に、議案第19号「令和5年度国立市立小学校教科用図書採択について」を議題といたします。

小島指導主事、お願いいたします。

○【小島指導主事】 それでは、議案第19号「令和5年度国立市立小学校教科用図書採択について」ご説明をさせていただきます。

本件は地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する

法律の規定に基づき、国立市立小学校において使用する教科用図書の採択を、公正で円滑かつ適正に行うため必要な事項を定めた国立市立学校教科用図書採択要綱に従い、令和6年度より国立市立小学校において使用する教科用図書の採択を進めるものです。

今回の採択では11教科の教科用図書を採択することとなります。今回採択いただきます小学校各教科で使用する教科用図書につきましては、令和9年度までの使用となります。採択事務の日程は資料の採択日程を御覧いただければと存じます。教科用図書審議会では、教科用図書調査研究委員からの意見を踏まえ、国立市立小学校で使用する教科用図書について審議し、審議会としての意見をまとめ、その結果を令和5年度第7回教育委員会定例会に報告いたします。

報告は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。説明が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、特にないということでございます。

私のほうから一言だけ。補足的といいますが、申し上げますけれども、この教科書採択に関しましては、先ほど指導主事のほうからお話があったように、公平・公正・中立ということの保持、あるいは疑念を抱かれるような行動等はなさらないように、これは委員の皆様、十分認識をしていただいているところだろうとは思いますが、私のほうからあえて付け加えさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、採決に入ります。皆様、ご異議がないようですので、可決でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。議案第19号「令和5年度国立市立小学校教科用図書採択について」は可決いたします。



○議題（5） 議案第20号 令和5年度国立市特別支援学級教科用図書採択について

○【雨宮教育長】 次に、議案第20号「令和5年度国立市特別支援学級教科用図書採択について」を議題といたします。

川畑指導担当課長、よろしくお願いいたします。

○【川畑指導担当課長】 それでは、議案第20号「令和5年度国立市特別支援学級教科用図書採択について」ご説明いたします。

本件は地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定に基づき、国立市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択を、公正で円滑かつ適正に行うために必要な事項を定めた国立市特別支援学級教科用図書採択要綱に従い、令和6年度に国立市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択を決めるものです。採択に当たりましては、特別支援学級設置校長及び特別支援学級設置校長が推薦した特別支援学級の担任教員によって構成されます。

教科用図書審議会を設置し、その下に特別支援学級設置校ごとに校長、副校長、特別支援学級担任で構成する調査研究委員会を設置いたします。各校の調査研究委員会では、児童生徒の実態に応じて検定教科書または一般図書から指導に使用する教科用図書を調査研究し、その結果を教科用図書審議会に報告します。検定教科書を使用する場合には、小中学校で採択した教科書を使用することになります。また、いわゆる一般図書を使用する場合には、毎年採択替えをすることができるとしてあります。教科用図書審議会

では各校から報告された内容を参考に、教科用図書の調査結果について、その結果を令和5年第7回教育委員会定例会で報告いたします。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。説明が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。

大野委員、お願いします。

○【大野委員】 質問ですけれども、5月31日からのと6月14日からの、名称が特別展示会というのと法定展示会と変わっているのですけれども、これはどういうことなのか。あと、それぞれで何が、一般図書展示というのですけれども、どういったものが見られるのかというのを教えてください。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、特別展示会あるいは法定展示会というものと、どういう図書が見られるのかというご質問でございます。

川畑指導担当課長、よろしくお願いいたします。

○【川畑指導担当課長】 まず、法定展示会なのですけれども、法で定められた期間、国で、文部科学省のほうで定めた期間のうち、個々の教育委員会が定めた14日間となります。その法定展示会の前後10日に、都のほうが設定できる期間を特別展示会といっておりまして、展示している内容は変わりません。また、ここでは特別支援学級で使用する一般図書も展示で見ることができます。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

大野委員、よろしくお願いいたします。

○【大野委員】 一般図書から選べるわけだから、相当冊数が多くなるのかなと思ったのですけれども。一般の教科書だったら限りがあると思うのですけれども、一般図書というものの、要するに何からでも選べるということになってしまうと、その中でも一定の範囲の中の一般図書が展示されているというイメージなのでしょうか。あるいは「特別支援ではこれがいいよ」という、そこで推薦するものが並べられているのでしょうか。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。展示される一般図書というのがどのようなものなのかというご指摘だったと思うのですけれども。

川畑指導担当課長、よろしくお願いいたします。

○【川畑指導担当課長】 一般図書と呼ばれているものですが、文部科学省のほうから採択できる一般図書の冊子の一覧がありますので、本当に広く何でもかんでもといったわけではありません。また、これは附則9条図書といわれているものですので、ある程度定められているというか、範囲が決められている図書です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

○【大野委員】 分かりました。

○【雨宮教育長】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、採決に入ります。皆様、ご異議がないようですので、可決でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。議案第20号「令和5年度国立市特別支援学級教科用図書採択について」は可決といたします。



○議題(6) 報告事項2) 令和4年度卒業式、令和5年度入学式の実施報告について

○【雨宮教育長】 次に、報告事項２「令和４年度卒業式、令和５年度入学式の実施報告について」に移ります。

小島指導主事、よろしくお願いいたします。

○【小島指導主事】 それでは、報告事項２「令和４年度卒業式、令和５年度入学式の実施報告」をいたします。学習指導要領には儀式的行事の目的として、「学校生活に有意義な変化や折り目をつけ、厳粛で静かな気分を味わい、新しい生活の展開への動機づけになるような活動を行う」ようにと示されております。

令和５年２月に改定された学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル等を踏まえ、卒業式、入学式といった儀式的行事においてもマスクの着用を求めないことを基本として実施しております。

各学校からは多くの児童生徒がマスクを外し、お互いの顔を合わせ式に参加しております。卒業式、入学式も厳粛な雰囲気の中で行われたと学校のほうからは報告を受けております。以上でございます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。報告が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。よろしいでしょうか。



○議題（７） 報告事項３） 国立市教育委員会教育振興施策の体系の見直しについて

○【雨宮教育長】 それでは、報告事項３「国立市教育委員会教育振興施策の体系の見直しについて」に移ります。

石田教育総務課長、よろしくお願いいたします。

○【石田教育総務課長】 報告事項３「国立市教育委員会教育振興施策の体系の見直しについて」を報告いたします。

教育振興施策の体系は、教育委員会全体の施策を体系的に整理し、一覧できる表として作成しているもので、構成は一番上に国立市教育委員会の教育目標を示し、次に教育委員会の基本方針を示した上で、その下からを一覧表としたものでございます。例年見直しをしております。令和５年度実施に当たり、事業等の追加や修正をいたしましたので、主な追加事業等を報告させていただきます。なお、追加・修正分につきましては、赤字の見え消しで記しています。

表の見出し、左から「施策目標」、それから「施策の柱」「主要施策の順」、そして「主要事業・主な取組」「主管課」を確認させていただきます。

では、施策目標の１つ目「豊かな心と確かな学力を身に付けた、健やかな子どもを育てます」の中で、施策の柱の１番目「自他の生命を大切にし、人権尊重の精神を重視した人権教育」におきまして、「命の教育」だったものを「人権教育」に改めたところでございます。

その施策の柱の中の主要施策１「人権教育の推進」におきまして、「助産師による『いのちの教育』」そして「がん教育」を追加いたしました。

次に、同じ施策目標の２番目です。「主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、確かな学力をはぐくむ教育」の主要施策１「授業改善の推進」におきまして、「指導者用デジタル教科書の活用」を追加いたしました。

次に、施策目標の２つ目、「学びをつなげ、途切れない教育と支援を行います」の中の２番目の施策の柱、「児童・生徒一人一人のよさや可能性を引き出し、そのニーズに応じた教育」につきまして、その主要施策の１番目、新たに「フルインクルーシブ教育の推進」を設けまして、その主要事業等といたしまし

て、「フルインクルーシブ教育スーパーバイザーの配置及びフルインクルーシブ教育の実現を見据えた検討」と主管課を「教育指導支援課」として設けたところでございます。

その次からは、項目の番号見直しを行いまして、2「特別支援教育体制の充実」におきましては、1を追加したことによる見直しをしまして、「フルインクルーシブ教育」を削除し、「特別支援教育の充実」を「特別支援学級の教育活動の充実」と1つにまとめ、また、「医療的ケアに係る看護師及び支援員の活用」の「支援員」の部分を「介助員」に改め、「教職員の専門性の向上」の事業を追加したところでございます。

次の主要施策3「教育相談体制の充実」では、「学校生活満足度調査の実施」を削除し、「教育カウンセラー」を「初級教育カウンセラー」に改め、「国立市総合教育センターの整備・運営」の事業を追加いたしました。

次に、主要施策4「いじめ問題・不登校の対策の推進」では、「学校生活満足度調査の実施及び活用」の事業を追加しました。

裏面を御覧ください。同じ施策目標で、施策の柱の3番目です。「就学前教育機関等との連携を重視した就学の支援」の主要施策2「連続性のある発達支援の推進」では、「国立市総合教育センターの整備・運営」を追加、再掲いたしました。

施策目標の3つ目「教員の資質・指導力とともに、学校の経営力・組織力を高めます」の中の3番目の施策の柱「学校の教育目標を実現できる組織力の向上と特色ある学校づくり」の主要施策2「教員の働き方改革の推進」では、「採点システムの導入の試行的導入」と「部活動の地域移行に向けた検討」を追加いたしました。

施策目標の4つ目「学校教育環境等を整備充実します」の1番目の施策の柱「豊かな学びを支える学校施設・設備の整備」の主要施策2「校舎等建替の推進」では、「長期的視野に立った校舎等の建替及び複合化に向けた検討および実施」を削除し、「学校施設全体のグランドデザインを定める国立市学校施設整備基本方針の見直し」を追加いたしました。

次の行、主要施策3「学校施設環境の向上」では、「学校トイレ環境の整備」を削除し、その次の行、主要施策4「給食センターの整備・充実」では、「新学校給食センター」を「食育推進・給食ステーション」に改めたところでございます。

施策目標の5つ目「社会との関わりの中で豊かな学びを実現します」の主要施策1「開かれた学校づくりの推進」では、「コミュニティ・スクール導入に向けた検討」を追加しました。

施策目標の6つ目「生涯にわたって豊かな学びと、文化・芸術、スポーツ活動を支援します」の1番目の施策の柱「生きがい、ふれあいを育む生涯学習」の主要施策2「公民館・図書館を中心とした学習機会・学習情報提供の推進」では、「第四次国立市子ども読書活動推進計画策定」を追加しました。

同じ施策目標、施策の柱4番目「体力・健康の保持、増進を図るスポーツ・レクリエーション」の主要施策1「市民のスポーツ・レクリエーション活動の推進」では、「総合体育館施設の提供」を追加しました。

その他の修正につきましては、文言や表現の修正でございます。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。報告が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 幾つか思いつくままに。まず、一番最初の「豊かな心と」というところの一番下の「安心、安全な給食の提供と食育」のところに、「主要事業・主な取組」のところに、今度できる食育推進・給食ステーションの名前が入っていないので、そこが中核となってここを進めるのかなという気がするのです。主管課に給食センターという名前が入っていますけれど、新しくできる部分を強調してもいいのかなという気がちょっとしたのです。どういうふうを書くかはお任せしますけれど。

それから、その下の「学びをつなげ」のところの、いろいろ大きく変わった部分ですね。フルインクルーシブのことが中心に書かれているところなのですから、これ、結構大きい部分があるかと思うのですけれども、1つぜひ入れておいてほしいのが、「教職員の専門性の向上」というのが今回加わったのですけれども、プラス、特別支援教育に関しての教職員全体の研修といいますが、特別支援教育とは何なのかみたいなのをしっかり学んでいくということがベースにないと、フルインクルーシブ教育はできないと私は思うのです。そこのところがすごく重要な要素になると思うので、専門性の向上とさっきも言いましたけど、特別支援教室の巡回の教員とその子が所属しているクラスの教員をつなぐ役割を果たしている専門員さんの役割はすごく大きくて、通常の所属級の先生の理解がないと、その子にとっていい教育、特別支援教室の役割が果たせないことになっていくわけです、別々では。本人は一人で一緒なのですが。そういう部分がすごく必要な部分なのですね。ぜひそこら辺を少し入れていただけるといいかなと思うのです。そこら辺が僕はここのところを進めるベースのところ、国立の先生方みんな、国立がやっている特別支援教育はこんなものだ、こういうことだと分かるという部分。これ地域差がすごくあるような気がするものですから、ぜひぜひそこを底上げというか、当たり前なのですが、全体として子どもをしっかり見ていくことができ初めてより一歩近づいていくかなということを思います。

それから、そのいじめや不登校のところなのですが、一番最後の「不登校支援に関わる教育と福祉の連携協議会」と書いてあるのですが、これいわゆるくにサポとの連携の話かなと思っていて、この4月から現実に関わりが始まったかと思うのですけれども、ちょっとそこが分かりやすく書かれるといいのかな。言っていることは多分お分かりになっていただけるかと思います。

以上。ちょっとたくさん言ってしまいましたが。

○【雨宮教育長】 では、3点でしたか。まず、給食センターのところで、学校給食の食育のガイドラインのことが載っていないよねということだったと思います。

土方給食センター所長。

○【土方給食センター所長】 ご質問にお答えいたします。この施策目標と施策の柱という章立ての部分で、ここはあくまでもソフト面かなと思ひまして、給食ステーションの名前を入れていない状態でございました。先ほど教育総務課長がご説明いたしましたように、施策目標の4つ目のハード面の部分では給食ステーションを入れさせていただいている形で今回書かせていただいております。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。3つご質問いただいているので。2つ目が、「特別支援教育体制の充実」のところで、「専門性の向上」という形で今回入れていただいているわけですが、そのベースとなる教員の方々の共通理解というのをきちんとするために研修という、当然やっていくのでしょうけれども、そういう文言があったほうがよろしいのではないかというご指摘でございました。

川畑指導担当課長、お願いいたします。

○【川畑指導担当課長】 この「専門性の向上」の中には、教職員研修といったところが含まれて考えておりましたので、しっかりと研修のところは入れていきたいと思ひます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それから、3点目が、「いじめ問題・不登校の対策の推進」

のところで、「不登校支援に関わる教育と福祉の連携協議会」という表現があるのですが、くにサポとの関連というお話があったのですが、この表現だとちょっと分かりづらいかなみたいなご質問だった気もするのですが。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 せっかく新年度からスタートしたわけですので、それが分かるように書いてあるといいなと思っただけなのです。これは去年と同じ書き方だから、今年は明らかにくにサポも関わって、不登校の子たちに対する対応をしていくという部分が増えているわけですね、実際に。今年度の施策ですから、ここは何かいい書き方があればなのですけども。

○【雨宮教育長】 連携協議会は昨年度から継続ということですよ。

橋本教育部長、お願いいたします。

○【橋本教育部長】 ご指摘いただいた部分というのは、表現の仕方が主なものかなと思っています。それで、考え方としては今、山口委員が言われたことは我々重々承知しながらやっていくつもりなので、その辺が分かりやすさという点で、しっかりと見た人に理解していただける、その辺は内部で整理をさせていただければと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。子ども家庭部がくにサポでも不登校支援をやっていただけたというお話があったので、その書きぶりということで検討させていただければと思います。

ほかにはいかがでしょうか。操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 施策目標の2番目の中の、一番下のところ、「就学前教育機関等との連携を重視」というところなのですけども、その次の主要施策とか、その中の「幼保等」と書いてあるのです。今、こども園の存在がすごく大きくなってきて、私の研究している機関でも「幼保子」という表現をして、3つを含めてまとめているので、そういった表現をしていただけるとありがたい、ご検討いただきたいと思います。

それから、裏面の4番、さっきとはちょっと違うのですけれども、給食ステーションと給食センターとありましたけれども、これもさっきの説明でいくといいのかな。ちょっと分からないのですけれど、主要施策は給食センターで、そして中のほうは、事業のほうでステーションだからいいのかなとちょっと思ったので、ご検討いただければと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。文言等で追加あるいは表現の整合性ということで頂きましたので、そこは整理させていただければと思います。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 表面の下から3段目「教育相談体制の充実」の文章なのですが、「初級教育カウンセラーの全校配置」と書かれていますけど、その初級教育カウンセラーという人が各学校にいと、そういう意味なのでしょうか。

○【雨宮教育長】 初級教育カウンセラーの関係、小島指導主事、お願いいたします。

○【小島指導主事】 初級教育カウンセラーというのは、令和3年度、4年度と各学校1名または2名ずつ資格取得をしていただきました。その方たちが中心となって、QUの実施も、もちろんあるのですけれども、その中でどうやって学級経営をしていくかということも含めて、エンカウンター等も活用した、中心となる教員の養成というところで資格取得を進めてきましたというところがございます。現在は各校2名体制で、これを維持するような形で継続的に進めていきたいと考えておりますので、ここに「初級教育カウンセラーの全校配置」と書かれているのは、そのような事情から書かせていただいているところで

ございます。

○【大野委員】 そうすると、研修において初級カウンセラーの資格というのか、それを取っているというのは分かったのですが、要するにそういう資格を持った教員が各学校に2名ですか、配置されていると、そういう意味ですね。

そうすると、例えば相談があるときには大体担任が窓口になると思うのですが、初級カウンセラーを持っている人もほかの学年だったり担任を持っていたりして、その人との関わりというのがイメージとしてどうなるのかなと思うのです。だから、「どうなるのかな」という感じで、ちょっと難しいですね。お答えいただかなくても結構なのですが、そういうことなのだと、分かりました。

○【雨宮教育長】 よろしいですか。教育カウンセラーの先生方というのは、基本的には先ほど小島指導主事が申し上げたように、Q Uをどのように円滑に維持するののかというのと同時に、学校においてそれぞれの学級がよりよいものになるようにいろいろなテクニックというのですか、先ほどありました構成的グループエンカウンターの手法とかそういうものを身につけていただいて、学校全体が居心地よくなるよという形で今、いる先生方にその資格を取っていただいているというシステムを令和3年度、4年度構築してきたということです。これが今、NPOさんの支援なども頂いてそういう体制を構築しておりますけれども、これを行く行くはNPOさんの支援を頂かなくて、学校の中で完結するような体制をとっていただければいいのかなと考えて、魅力ある学校づくりの一環という形でとらせていただいているということでございます。

大体よろしいでしょうか。

○【大野委員】 はい。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかには。佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 重複してしまいそうなのですが、不登校対策のところで、多様な学びが居場所づくりとして出席扱いになっていくということなどを検討していると思いますので、川崎市夢パークのような公的な国立市の居場所事業の整備をしていくことはまだ書けないのかなと思っているのと、不登校特例校の設置の検討なども、まだその段階ではないのかもしれませんが、そういういったことを検討していることが分かるような形がよいかなと、前向きに進めていけたらいいなということも含めてお伝えしました。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。その出席扱いの関係は、連携協議会の中で検討していただいているわけですね。居場所づくりも含めて。

橋本教育部長。

○【橋本教育部長】 出席扱いのほうは、どちらかというとこの協議会でも確認は、情報共有はしたいと思っているのですが、どちらかというと教育委員会が中心になって校長会と協議をしていきたい。多様な居場所の拡充については、これはやはり子ども家庭部との連携も必要になってくると。特例校、今年についてはなかなかここに入れるかどうかというのはあるのですが、福生のほうに分教室というのがあるということですので、そういうところの視察ですとか。ですから、様々な対応をやっていきたいと思っているので、少しその辺は見えてくるような、前進できるような取組というところで、文言の表現はいろいろ考えていければと思います。ありがとうございます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それではまた文言等の書きぶりは調整させていただければと思います。

私も1点だけいいですか。ちょっと読み取れないので申し訳ないのですが、裏面の生涯学習の下から2つ目の赤字のところ。「市民のスポーツ・レクリエーション活動の推進」の「総合体育館施設の提

供」は意味が取りづらいのですが、もうちょっと何か表現があるのではないかなと思うのですが、それを教えていただけますか。

井田生涯学習課長、お願いいたします。

○【井田生涯学習課長】 こちらを追加したのは、総合体育館は貸館機能も持っていますので、そこを想定して。2行上のところに「芸術小ホール・郷土文化館施設」、ここ名称を変えたのですが、「施設の提供」とあるにもかかわらず、体育館がなかったというところがございますので、整合を取るために追加させていただいて、何か新しいものを始めたというわけではないのですが、確かに貸館という意味では伝わりにくい部分がありますので、少し文言については何か考えたいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。そういう意味合いですね。

それでは、皆さんからご意見、あるいはご指摘いただきましたので、次に参りたいと思います。



○議題（８） 報告事項４） 令和４年度学校評価報告書について

○【雨宮教育長】 報告事項４「令和４年度学校評価報告書について」に移ります。

小島指導主事、お願いいたします。

○【小島指導主事】 それでは、報告事項４「令和４年度学校評価報告書について」ご報告をさせていただきます。

この報告書は学校教育法施行規則第 66 条に規定されている学校評価について、同第 68 条の規定により自己評価の結果及び学校関係者評価の結果を、国公立小中学校から提出を受けたものです。

学校評価は次の３つの目的を実施しております。第１は、教育活動の組織的・継続的な改善を図ること。第２は、公表・説明により適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民などの理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること、第３は、学校の設置者などが学校評価の結果に応じて学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ることです。

評価指標等については学校の実態に応じて独自に設定しておりますので、学校間での比較をするものではなく、各学校単位での評価であることをご留意いただければと思います。

各学校はこの評価を令和５年度の教育課程に反映させ、充実を図ってまいります。報告は以上となります。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。報告が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 学校での評価、ＡＢＣがつけられたものと、それから評議員の報告という２つがあるわけですが、学校によっては、学校からの報告と評議員からの記載が非常に似ているというか、もう一字も変わらないぐらい同じことを述べている学校もありました。一方、全然内容が違っているところもあったので、感想なのですが、ＣＳの導入がこれから始まってくると思うのですが、その辺が、透明性ではないか。それは、違ってきているというのは多分それぞれの独自性があると思うのですが、その辺が客観的に見ても、評議員、今度はＣＳになるのですかね。そこと学校とがよく話し合われているなということがうかがい知れるといいのかなという感想を持ちました。

ＣＳの制度になって、ここはまずいぞと、あるいはもっとしっかりやらなければいけないというのは、そういう叱咤激励がＣＳから来る可能性もあるのですが、私自身の希望としては、忙しくなっている学

校を少しでもバックアップするというか、助けられる、そういう存在になっていけばいいのではないかと
思うのです。そのためにやはりその両者の問題意識というのが、共通のところがあつたほうがいいの
かなという感想を読んで感じました。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。また、この辺りの、次に学校評議員会の報告もあるのです
けど、コミュニティ・スクールの導入に当たって、どのような形で情報提供していくのかとか、あるいは
その評価の仕方の整合みみたいなところというのは、これから事務局のほうで一定程度整理していく必要が
あるのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

ほかにはいかがでしょうか。

山口委員、よろしくお願いいたします。

○【山口委員】 見ての感想ですけれども、今、討議になっている学校評価に関して、「学校関係者評価」
のところが、それぞれの学校をかなり細かく見ていただいて、いい指摘が結構あるので、これは生かして
いけるのかなということを、この評価を見て感じたところであります。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかはよろしいですか。

操木委員、よろしくお願いいたします。

○【操木委員】 それぞれの学校で自己評価という話がありましたように、それぞれの学校がそれぞれの
学校の視点で1年間を振り返って、次年度の課題を見つけるという評価、ですから表現の方法、それから
評価ABCにつきましても、やっぱり学校独自で、独自性があつて、これはこうあるべきだと思って見せ
ていただいたのですけれども、あとは、学校間で当然この学校評価をお互いに交流し合ったりとか、そん
なことをやっているのでしょうか。

○【雨宮教育長】 では、質問で、学校間でやり取りがあるのかどうかということです。

小島指導主事、よろしくお願いいたします。

○【小島指導主事】 直接的に学校に学校評価を供覧するような仕組みはとっておりません。今、実施し
ているのは学校評価に関しては学校ホームページに掲載してくださいということで、各学校がホームペ
ージに掲載しておりますので、そちらのほうで情報を取っていただくという形が実施報告になっておりま
す。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。操木委員、よろしくお願いいたします。

○【操木委員】 そうですね、ホームページ等で公開していますよね。また配付物でもって保護者等に配
っていると思うのですが、それはこれそのものではないでしょう。学校によって違うのかな。学校によ
ってもう少しコンパクトにしたものを配付したりとか、掲示したりする学校もあるし、これをそのまま載
せている学校もあると思うのですが、その辺り国立の学校はどんな感じですかね。

○【雨宮教育長】 学校の公表の形についてということで。小島指導主事、よろしくお願いいたします。

○【小島指導主事】 学校ホームページに掲載しているものに関しては、今、お示ししている資料のまま
掲載ということになっております。

○【操木委員】 分かりました。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかはよろしいでしょうか。



○議題（９） 報告事項５） 令和４年度国立市立小・中学校 学校評議員会の報告について

○【雨宮教育長】 よろしければ、報告事項５「令和４年度国立市立小・中学校 学校評議員会の報告に
ついて」に移ります。

小島指導主事、お願いいたします。

○【小島指導主事】 それでは、報告事項5「令和4年度国立市立小・中学校 学校評議員会の報告について」ご説明させていただきます。

本件は、令和4年度国立市立小・中学校、各校に設置された学校評議員会について、国立市立小・中学校評議員会設置要綱第6条3項に基づき、各学校長が評議員会における協議事項などを教育委員会に報告するものでございます。各校年3回を原則として評議員会を開催し、学校運営の基本方針及び計画に関すること、教育活動の実施に関すること、学校運営の評価に関することなどについて、学校長が必要に応じて評議員に答弁を求めています。

令和4年度は感染症対策を講じながら年3回の学校評議員会が開催されています。各学校における主な協議事項及び評議員からの建設的なご意見を頂いているところでございます。そのことを踏まえ、学校として課題と対応策としてまとめさせていただいております。

令和5年度も校長が行う学校運営に関しては、幅広く意見を聞く場として機能するよう、必要な支援を教育委員会ではとってまいります。

報告は以上となります。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。報告が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 感想です。コロナが始まって3年間で、だから3年前というか、おとしになるのかな。評議員会もなかなか開くのが大変だったと思っております。令和4年度は従来の形で学期に1回は開かれていてということで、あとやり取りも結構具体的に細かくやられているなどと思って、大変よかったなと感じました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。



○議題（10） 報告事項6） 市教委名義使用について（7件）

○【雨宮教育長】 それでは、報告事項6「市教委名義使用について」に移ります。

井田生涯学習課長、お願いいたします。

○【井田生涯学習課長】 では、令和4年度3月分の教育委員会後援等名義使用について報告いたします。

お手元の資料のとおり、後援の承認6件、共催の承認1件でございます。資料のうち2番が共催であり、その他が後援となっております。

1件目は、キッズマネースクール主催の「キッズマネースクールリバー校」です。子どもたちにお金の大切さ、親への感謝を伝えることを目的に体験型の勉強会を実施するもので、参加費は無料となっております。

2件目は、SDGs全国子どもポスターコンクール実行委員会主催の「第4回SDGs全国子どもポスターコンクール」でございます。こちらは共催名義の承認でございます。SDGsへの理解を深め、普及することを目的にポスターコンクールを行うもので、参加費は無料となっております。

3件目は、公益財団法人立川青年会議所主催の「第5回わんぱく相撲国立場所」です。子どもに礼節や他者への思いやりを学んでもらうことを目的に相撲の大会を行うもので、参加費は無料となっております。

4件目は、公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団主催の「日本フィル夏休みコンサート2023」です。多くの子どもたちやその家族に芸術性の高い音楽を身近で聞いてもらい、子どもたちの豊かな感情を

呼び起こすことを目的にオーケストラによるコンサートを行うもので、参加費は資料記載のとおりとなっております。

5 件目は、日本児童・青少年演劇劇団協同組合主催の「2023年第51回夏休み児童・青少年演劇フェスティバル」でございます。幼少期の舞台芸術体験の機会拡充、子どもの人格形成や心の成長につなげることを目的に、劇公演やワークショップを行うもので、参加費は公演内容により設定されております。

6 件目は、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学主催の「令和 5 年度東京女子体育大学・東京女子体育短期大学公開講座」でございます。地域住民の交流、青少年の競技力向上、健康増進へ貢献することを目的に公開講座を行うもので、参加費は無料となっております。

7 件目は、NPO法人くにたち農園の会主催の「はたけんぼ放課後クラブニコニコデイキャンプ（親子体験会）」でございます。市内の親子に自然、農業に触れ合う機会を提供することを目的に、デイキャンプの体験会を行うもので、参加費は1家族500円となっております。

以上、7 件について、事務局で審議をし、妥当と判断し、名義の使用を承認いたしましたので、報告いたします。

以上でございます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。報告が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。



○議題（11） 報告事項 7） 要望書について（1 件）

○【雨宮教育長】 それでは、報告事項 7「要望書について」に移ります。

石田教育総務課長、お願いいたします。

○【石田教育総務課長】 要望は1 件です。子どもたちが主権者の社会科教育を求める会より、「文部官僚が経団連副会長である中教審会長らの言いなりで、『次期教育振興基本計画答申』に“愛国心” “日本人としての美徳やよさ” 等の文言を加筆した事案等、に関する要望書」を頂いております。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。報告が終わりました。事務局より補足説明はありますか。

荒西教育指導支援課長、お願いいたします。

○【荒西教育指導支援課長】 要望のご趣旨、大きく 4 点かと思います。1 点目は、校長会、教務主任会、リーダー研、初任研等でそちらに示されている 2－1 から 2－6 の内容を伝えてほしい。2 点目が、市教委が教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定める際には、最大限そちらの内容を尊重してほしい。3 点目が、都教委が東京教育ビジョンを定める際には最大限尊重するように市教委から伝えてほしい。4 点目が、市教委から文部科学省に対し次期教育振興計画答申に反対の声があるといった意見書を出してほしい、といったことかと思います。

担当課の見解といたしましては、1 点目、次期教育振興基本計画の答申については、文部科学省の諮問に対する答申でありまして、1 つ 1 つの内容についてその背景等に踏み込んで独自の解釈をすべきではないと認識してございます。したがって、要望者のおっしゃるような内容を校長会、教務主任会、リーダー研修、初任者研修等で周知する予定はございません。

2 点目が、市教委が教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるということは、現在のところ予定してはおりませんけれども、仮に定めることになった際には、文部科学省の教育基本計画、それから都の東京教育ビジョン、こちらを参考にしてまいります。

要望者の指摘する事項については、そのような意見を持つ市民もいらっしゃるということを踏まえた上で、丁寧に説明できるようにしてまいります。

3点目、都教委の東京教育ビジョンについては、都教委が文部科学省の教育振興基本計画を踏まえて主体的に策定するものでございますので、市教委は細かく意見する立場にないと認識してございます。

4点目、要望者をご指摘する内容について、特に国を愛する態度については、現行の学習指導要領においても内容項目に規定されている国とか国家については、政府や内閣などの統治機構を意味するものではなく、歴史的に形成されてきた国民、国土、伝統、文化などからなる歴史的、文化的な共同体としての国を意味しているものであると記載されていることから、要望者が捉えていらっしゃるように国家主義的、排外的、国粋主義的であるものとは認識してございません。一方で、様々な考え方があるのも事実かと思っておりますので、そういったご意見については直接文部科学省に届けていただければと存じます。

したがって、市教委として意見書を提出する予定はございません。

以上でございます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。説明が終わりました。ご質問、ご意見などございますでしょうか。よろしいですか。

ないということでございますので、よろしければ秘密会以外の審議案件は全て終了いたしました。

ここで次回の教育委員会の日程を決めておきたいと思います。どのようになりますでしょうか。

橋本教育部長、お願いいたします。

○【橋本教育部長】 次回の教育委員会でございますが、5月23日火曜日、午後2時から、会場は本日と同じく委員会室を予定しております。よろしくお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、こちらで終了いたしたいと思います。傍聴の皆様、大変お疲れさまでございました。

午後4時03分閉会